

平成22年度

学校評価資料



千葉県立船橋法典高等学校

学校評価シート (1/14)

部・学年	教務部	1/2	領域	学校経営
重点目標	1 校内での活動を積極的に公開し、地域から信頼される学校づくりを目指す。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）		
<p>① ホームページの内容を充実させ、定期的に更新する。</p> <p>② 中学生対象の学校説明会や学校見学のパンフレットや学校紹介ビデオの内容を充実させる。</p>		<p>① ホームページの掲載内容と更新状況。</p> <p>② 学校説明会の際に、中学生と保護者にアンケートをとる。</p>		
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
<p>① 昨年の全面改定に引き続き、今年6月にもマイナーチェンジを行い、サイズを適切なものとし、より見易いものとした。4月以降の更新回数は、22回（11月末まで）で、月2～3回のペースで行っている。学校行事や部活動の大会結果などは、即時更新できるよう心がけてきた。夏の学校説明会のアンケートでは、地図をわかりやすくしてほしいという要望があり、地図を大きくし、写真と矢印を加える修正をした。</p> <p>② 学校説明会に配布する資料、中学校訪問に持参する資料は、簡潔で見易いものにした。学校説明会のアンケート結果では、学校紹介スライドショーが好評であり、生徒の楽しそうな様子が伝わってくるといった意見が多数あった。また、ホームページを閲覧した割合は5割程度であるが、見やすく、きれいでわかりやすいという意見をいただいた。</p>				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
<p>① 今後も随時更新していきたい。部活動はもちろん、それ以外の生徒の活躍や新たな取組など、写真を付けて即時更新し、情報を発信していきたい。現在、更新作業ができる職員が1名しかおらず、今後は職員研修や係の見直しを図りたい。</p> <p>② 学校説明会では、本校の取組や生徒の様子など広く知ってもらうために、本校生徒が活躍する場をさらに増やしたい。また、中学生にも本校の取組を実際に体験できるような企画も考えたい。</p>				
v 学校関係者評価の結果				
<p>① 昨年度要望した部活動のページとPTA活動のページを充実させることは、概ね達成できたと感じる。部活動では、写真の挿入や大会結果の報告がなされており、PTA活動では、案内文書がダウンロードできたり、文化祭での取組なども写真で報告されており、大変わかりやすくなっている。</p> <p>② 学校説明会の参加者が大幅に増加したのは、地域から評価されている証拠である。</p>				
vi 学校評価のまとめ				
<p>① 今年は部活動を始め様々な分野で生徒が活躍し、その結果を即時公表することができた。今後ますます生徒の活躍が期待されるため、内容のさらなる充実と頻繁な更新が重要となってくる。本校の活動に関心も高くなっており、その期待に応えられるようなホームページ作りを心がけたい。</p> <p>② 地域からも評価され、期待される学校として、本校独自の取組を積極的に広報していきたい。</p>				

学校評価シート (2/14)

部・学年	1学年	1/1	領域	学校経営
重点目標	2 自己啓発指導重点校の取組として、退学者数の減少を目指す。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）		
③ 基本的な生活習慣を確立させ、基礎学力の定着を図り前向きな高校生活を送らせる。		③ 退学者数。家庭との連携状況。朝自習の取組状況。学校行事への参加状況。		
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
③ 皆勤の生徒が増加している。遅刻者数については昨年の同時期の1年生の遅刻者数と比べて3分の1と激減している。(11月の遅刻者数：昨年の1年222名、今年の1年72名)退学者数も減少している。学期末に朝自習の確認テストを行い、合格点に達しない生徒に対して夏休み・2学期末に「ボトムアップ補習」を行った。確認テスト上位者には表彰を行った。学年行事ではクラス対抗で「綱引き」「ドッチボール大会」「学年カルタ大会」「学年遠足」などを実施し、学年の親睦を深めるとともに、人間関係作りを推進することができた。				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
③ 遅刻は継続して減少させるよう生徒の意識を高めていきたい。長欠中の生徒が数名いるので引き続き保護者と連絡をとりあい、本人のためになる方向性を決めていきたい。朝自習では基礎力ドリルを活用し、生徒全員が最低限の力をつけられるよう指導していきたい。学年行事では引き続き、人間関係を円滑につくれるようなものを取り入れ2年次のクラス替えをしたときに、新しいクラスにすぐになじめるような準備をしていきたい。				
v 学校関係者評価の結果				
③ 遅刻者が大変減少しているが、教員側の指導に乗ってくる生徒が増えたことが大きく影響していると考えられる。朝自習の補習について、部活動に参加している生徒は補習を優先させることは学生として当然のことである。学校は生徒1人1人に大変手厚い指導をしてくれている。生徒の法典生としての意識を非常に高めていると思う。				
vi 学校評価のまとめ				
③ 大多数の生徒は服装・頭髪・遅刻など生活指導に関するルールに肯定的な姿勢を見せている。学校へ来る意義を自分で意識することが転退学の減少につながってくると思う。今後も生徒の意識を高める指導を続けていきたい。				

学校評価シート (3/14)

部・学年	総務部 1/2	領域	学校経営
重点目標	3 PTA活動を更に活性化し、生徒の健全育成に資する。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
<p>④ 本校PTAを構成する広報、通学安全、企画の3委員会が積極的に活動できる環境を整える。</p> <p>⑤ PTA活動の中心となる総会及び理事会が充実したものになるよう、準備段階から入念に対処する。</p>		<p>④ 各委員会の出席状況及びその活動状況。参加者の感想等。</p> <p>⑤ 総会、理事会の参加状況。生徒一人あたりの参加者数を対前年比で把握する。</p>	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
<p>④ 広報委員会は学校側の担当教員が変わったにもかかわらず、前年を上回る活躍ぶりであった。出席状況は、6/14が13名、6/16が12名、9/24が10名、10/8（体育祭）が12名であった。通学安全委員会は従前通りの活動で、本校保護者の通学安全への意識の高さが随所に伺え、頼もしい限りであった。出席状況は、6/25が15名、10/15が11名、11/26が10名であった。今年度特筆すべきは、企画委員会の充実した活動ぶりである。緑城祭PTA催事、PTA研修会の企画においては、当委員会が能動的に機能し、十分その任を果たした。発足2年目にして位置づけが鮮明になったという感がある。出席状況は7/9が8名、9/9が10名、11/4が9名であった。</p> <p>⑤ 生徒1人あたりの参加者数は、次の式により算出するものとする。 （総会または理事会の参加者数）÷（当日の全校在籍生徒数） 対前年比で総会（6/4）が-0.012、第1回理事会（4/23）が+0.014、第2回理事会（7/9）が+0.007、第3回理事会（9/24）が+0.042であった。総会の数値がマイナスだったが理事会の出席状況は概ね良好、今後の隆盛を予感させるものがある。</p>			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
<p>④ 各委員会とも十分その責を果たしたというべきだが、現状に満足することなく改善点を見出し、魅力ある委員会活動に導きたいものである。その際、船橋地区PTA研究協議会等の場で紹介があった、他校の活動等を参考にしたいものである。</p> <p>⑤ 総会の重要性を、全校保護者に喚起する必要性を感じる次第である。来年度の総会の案内の中には、訴求力のある文言を織り込み、出席を促したいものである。</p>			
v 学校関係者評価の結果			
<p>④ おおむね3つのPTA委員会が有機的に機能しているようである。今後も活躍を期待したい。</p> <p>⑤ 総会の重要性を保護者に訴求するのは誠に結構だが、上滑りの内容に終始しないよう注意したい。総会が魅力的なものになれば、おのずと保護者の出席数は増加するのではないだろうか。一つの方策として、著名な講師を招聘してはいかがだろうか。</p>			
vi 学校評価のまとめ			
<p>④ 各PTA理事が3つのPTA委員会のいずれかに属し活動することは、効率的なPTA運営の一助になっていると結論づけられる。また、会長、副会長が調整役になり、さらに学校側が支えることにより、有機的に活動できたといえる。</p> <p>⑤ 実は、総会の後段とし、今年度講演を実施した経緯があるが、上掲の数値になった。今後、講師の吟味、保護者への連絡方法等、検討したい。</p>			

学校評価シート (4/14)

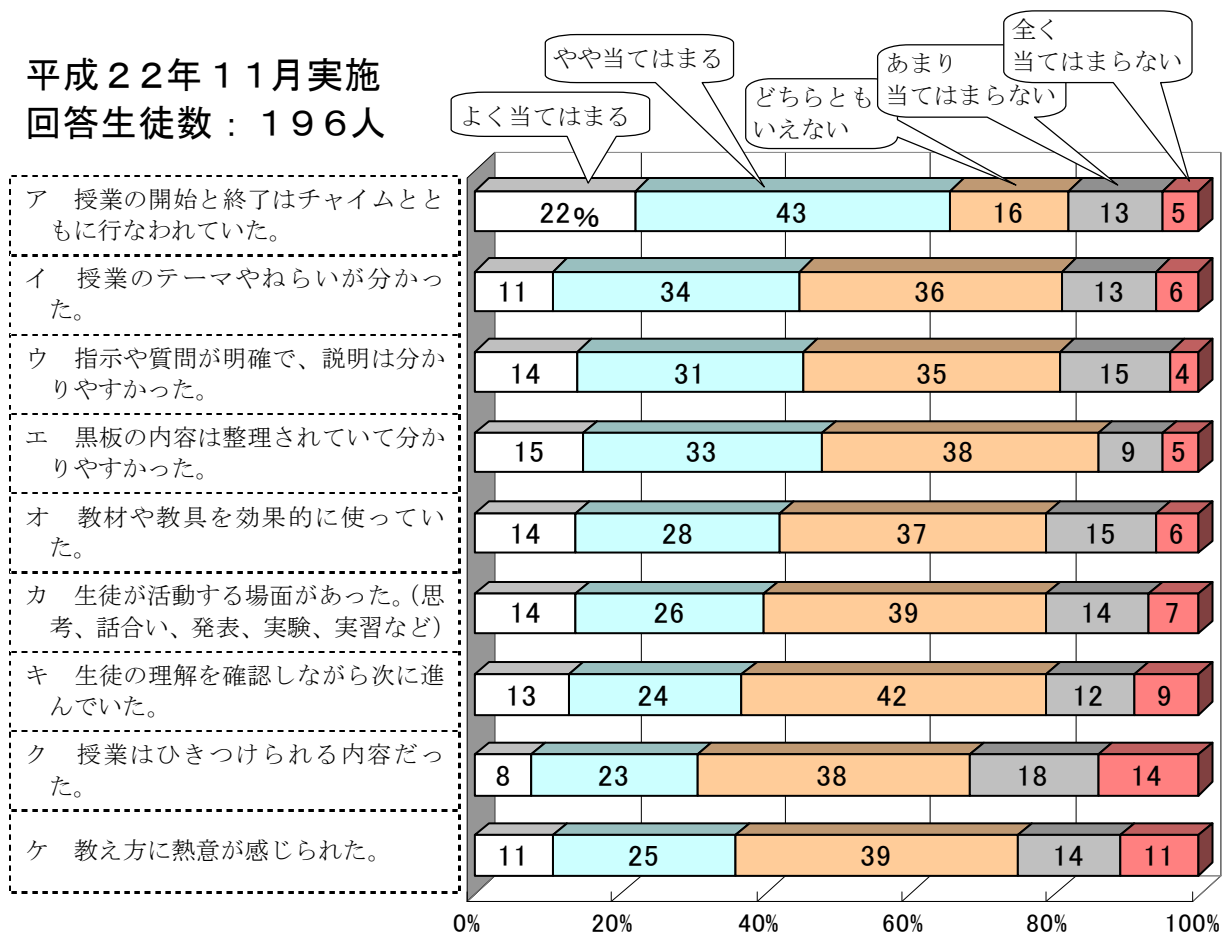
部・学年	事務室 1/1	領 域	学校経営
重点目標	4 適正で効率的な財産管理と公金の扱いに努める。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
⑥ 予算要求の内容を精査し、効果的な執行を行う。		⑥ 新規購入品と現有物品の調査結果。各棟単位、各教科単位での備品設置状況。	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
⑥ 備品の状態を確認して、不用決定・廃棄等を進めている。			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
⑥ 備品台帳を整理することにより、必要なものの把握に努める。パソコン等情報関連機器については、限られた予算の中で、常に更新を図る必要があり、導入に係る県の方針、予算の配分などを確かめながら調整しなければならない。			
v 学校関係者評価の結果			
⑥ 上半期での購入に努めた結果、有効な予算執行ができたと思われる。一方で、下半期における想定外の案件、学校運営上不可欠なチャイムの故障による新規購入等に対応するため、費用の確保に苦慮した。			
vi 学校評価のまとめ			
⑥ コンプライアンス意識を持ちながら、千葉県官公需施策を推進するよう、また、学校運営に貢献できるよう、これからも努力したい。			

学校評価シート (5/14)

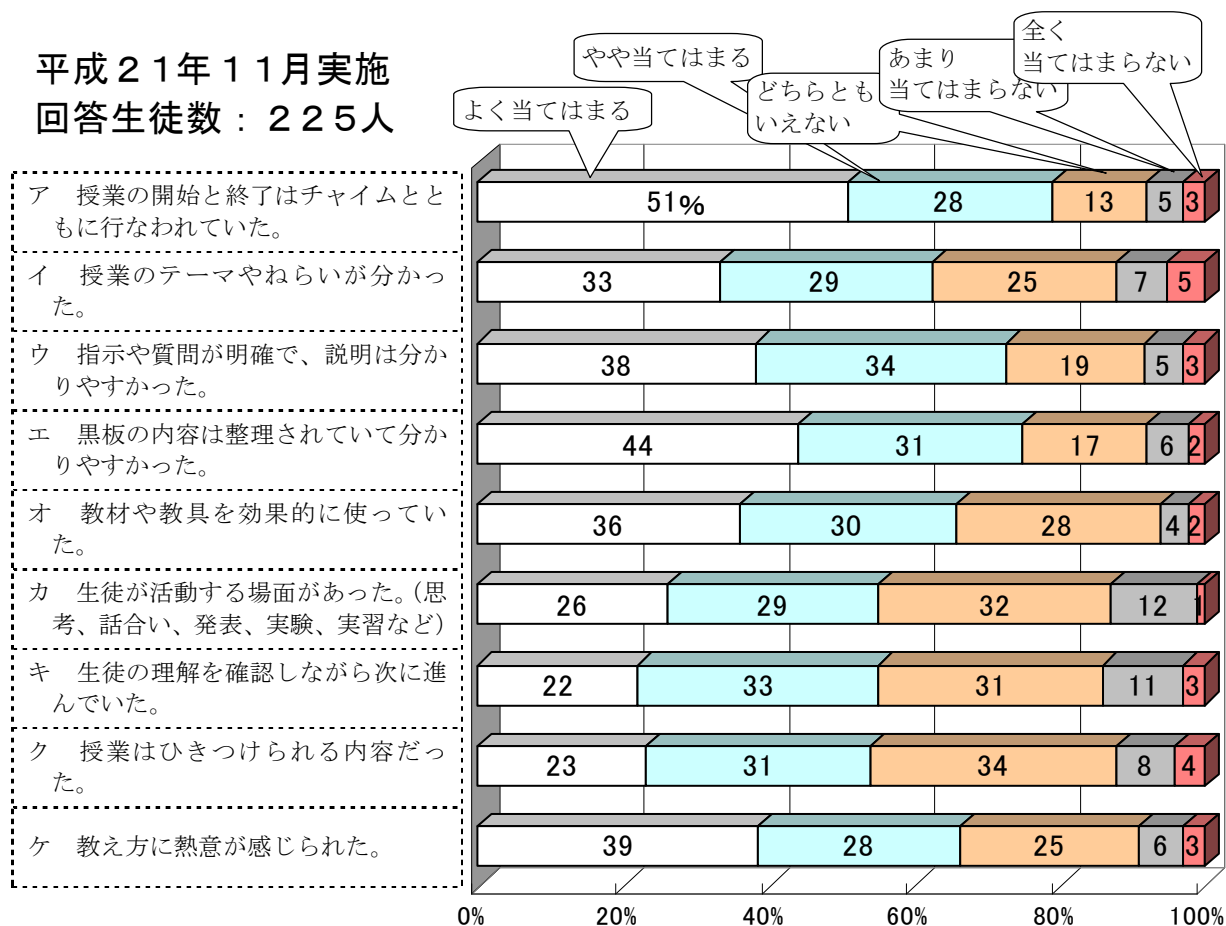
部・学年	教務部	2/2	領域	学習指導
重点目標	1 基礎・基本の定着を図るために、授業の工夫・改善に努め、分かる授業を行う。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）		
<p>① 生徒が興味を持ち、自ら考え、活動できる授業が展開できるように努める。</p> <p>② 中学校での学習事項を整理して指導する「レディネス・プログラム」や、学習単元の特性に応じて適宜、レッスンルームを編制する「単元別習熟度別授業」を実施する。</p>		<p>① 授業公開の実施回数と実施状況。<u>校内研究授業・研修会の実施回数とその状況。</u></p> <p>② <u>生徒対象授業アンケートの結果。</u></p>		
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
<p>① 職員間授業公開は、5/10～5/14、9/13～17と1・2学期とも1週間ずつ行った。保護者と開かれた学校づくり委員会による授業参観は、6/12、法田中学校・法典小学校の先生方の授業参観は10/29に行った。研究授業は、英語担当者が6/28と12/1に2年生の英語Ⅱの授業で行った。職員全体の研修は、7/14に教育相談と生徒指導関係、12/8に人権同和教育と発達支援関係の2回を実施した。3学期には、情報管理に関する研修を行う予定である。</p> <p>② 1年生では、1学期中間考査まで各教科で「レディネス・プログラム」を実施。また、1年生の英語Ⅰでは1学期中間考査以降、習熟度別授業を展開している。2年の数学Ⅱでは、単元ごとに習熟度別授業を行っている。生徒による授業評価アンケートの結果は、昨年と同じ質問項目で実施したが、昨年のような良好な結果は得られなかった。</p>				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
<p>① 職員間授業公開を昨年度の2日ずつから1週間ずつに大幅に期間を増やした。今後もこの期間を確保し、相互に授業を見る機会としたい。研究授業も積極的に行い、教員がそれぞれに持っている指導法や独自の教材などを共有し、研鑽していきたい。</p> <p>② 「生徒対象授業アンケート」では、すべての項目において「よくあてはまる」の回答が減少し、「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」の回答が増加していることは、残念である。特に「授業の開始・終了は、チャイムとともに行われていた」については、「よくあてはまる」が昨年度51%あったものが、今年度は22%に減少し、「あまり当てはまらない」が5%から13%に増加している。これはすぐにでも改善を図りたい。また、その他の項目についても、アンケート結果をさらに分析し、改善に努めたい。アンケートの結果は、生徒の授業に取り組む姿勢も反映しており、学年、あるいはクラスによっては授業規律が確立されず、授業が円滑に展開できない現状もある。教室環境の整備、規律意識の向上、学習意欲の喚起など生徒一人一人に根気強く指導していく必要がある。</p>				
v 学校関係者評価の結果				
<p>① 授業公開や研修については、さらに充実した内容で実施してほしい。</p> <p>② アンケートの結果を受けて、改善できるところは改善すべきであるが、教師として確固とした信念を持って、毅然とした態度で指導をしてほしい。</p>				
vi 学校評価のまとめ				
<p>① 生徒にとってわかる授業を実践し、基礎・基本の定着を図るために、今後も研修や授業公開を充実させていく。</p> <p>② 生徒の学力向上を図るには、毎時間が面白い授業とはならない。生徒の意欲を損なうことなく基礎・基本を定着できるよう、さらに授業の工夫を行いたい。</p>				

「生徒対象授業アンケート」集計結果

平成22年11月実施
回答生徒数：196人



平成21年11月実施
回答生徒数：225人



学 校 評 価 シ ー ト (6 / 1 4)

部・学年	2 学年 1 / 2	領 域	学習指導
重点目標	2 将来、良き社会人となるために必要な「教養」を身につける。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
③ K 1 検定（基礎学力検定）をはじめ、サービス接遇検定や漢字検定などの各種検定を通じ、基礎学力・一般常識の定着を図る。		③ K 1 検定の回毎の結果分析、外部検定の結果、アンケート等。	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
③ 基礎学力の定着を図る通常のK 1 検定に加え、学年行事とリンクさせた「沖縄検定」、並びに社会人としての素養を磨く「サービス接遇検定」及び「ビジネス電話検定」を実施した。沖縄検定では生徒の異文化理解が深まり、視野を広げることができた。2つのビジネス系検定の合格率は、サービス接遇検定 30.2%、ビジネス電話検定 48.0%であったが、生徒のアンケートや感想から、社会人となるための基本的な心構えとコミュニケーション技術の大切さを学ぶことができたようだ。			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
③ 通常のK 1 検定や沖縄検定は校内の検定であるが、実施した2つのビジネス系検定は全国規模の正式な検定である。良き社会人となるための動機付けとして、大きな効果があった。来年度は難関である「秘書検定」を予定しているが、検定に対する現在のモチベーションを維持させていきたい。			
v 学校関係者評価の結果			
③ 今後も高校生の就職活動が困難を伴うことは十分に予想される。就職試験合格を目指し、面接での立居振舞や話し方を学ぶ予備校的な教室もあるようである。ビジネス系の検定は、そうした世の中の動向に適った取組であり、将来に向けての実践的で意味のある学習活動である。			
vi 学校評価のまとめ			
③ ビジネス系の検定は社会人としての教養、素養を磨くための検定であるが、将来良き社会人になるための動機付けとして効果があっただけでなく、生徒の多くがコミュニケーション力とそれを支える「国語力」の大切さに気づいたという点で、大きな成果であった。通常のK 1 検定は日常生活の中で定着しており、来年度も硬軟合わせた教材で基礎学力を定着させていきたい。			

学 校 評 価 シ ー ト (7/14)

部・学年	生徒指導 1/3	領 域	生徒指導
重点目標	1 遅刻指導により、遅刻者の減少を図り、生活習慣を確立する。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
① 各学期5回以上遅刻した生徒に対して、3日連続の早朝登校指導を実践することで、遅刻回数の減少を図る。		① 毎日の学校全体の遅刻者数。	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
① 今年度は遅刻の指導として、各学期に5回以上遅刻すると、3回連続の早朝登校指導を実施した。また、早朝登校ができなかった生徒に対しては、各学年の実態に応じて、奉仕活動を実施した。その結果、12月までの8ヶ月間の延べ遅刻回数（括弧内は前年比）は、1年563回（-589回、-51.1%）、2年1,393回（-123回、-8.1%）、3年1,204回（-581回、-32.5%）、合計3,466回（-1,007回、-29.0%）であった。昨年度は一昨年度に比べて遅刻回数を2割（18.3%）近く減らすことができたが、今年度はさらに3割近くの減らすことができた。			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
① 各学年の指導の成果で、生徒の中に「遅刻をしてはいけない」という意識が定着してきた。今年度は、早朝登校ができなかった生徒に対して、各学年の実態に応じた活動（奉仕活動）を実施してきたが、来年度は、3学年統一した活動（指導方針）で実施したいと考えている。			
v 学校関係者評価の結果			
① 遅刻をしないためには、本人の自覚が一番大切となる。また、親に対しても責任を持ってもらうために、何かペナルティーがあってはどうかという意見があった。昨年度まで実際に、遅刻の回数により、保護者を召喚して面談を実施していたが、仕事をもっていることや来校できないことを配慮して、今年度から電話連絡となっている。			
vi 学校評価のまとめ			
① 今年度は、各学年による遅刻指導の効果で、遅刻の生徒が減少している。来年度は、生徒指導部から全学年統一した体制で指導したい。生徒も、遅刻をしないことが当たり前という習慣に変わってきているので、今がチャンスと考える。また、遅刻の生徒は一部の生徒に常習化されているので、個別の指導で成果を上げたい。			

学校評価シート (8/14)

部・学年	生徒指導 2/3	領域	生徒指導
重点目標	2 定期的な頭髪・服装などの指導を実施し、規範意識を育てる。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）	ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）		
② 改善指導対象者が減少するように、各学年で定期的に頭髪・服装指導を実施する。	② 改善指導対象者の数。		
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
② 今年度も一斉頭髪・服装指導へ向けて、各学年で事前指導を実施した。また、2学年では、毎月頭髪指導を実施している。その結果、「改善指導」を受ける生徒は、昨年度に引き続きかなり減少した。なお、12月までの4回の各学年の事前指導対象人数は、1年47人、2年61人、3年60人、「改善指導」の対象人数は、1年3人、2年1人、3年22人であった。また、昨年度からの目標だった「改善指導」対象生徒ゼロが、6月の一斉指導のときに達成することができた。			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
② 各学年との連携が図れ、6月の一斉指導では、「改善指導」対象者ゼロを達成できた。詳細をみると、1学期（4月・6月）の「改善指導」対象者が1人に対して、2学期（9月・10月）は、25人である。このことから、長期休業中（夏季休業中）における生徒の生活のみだれ（夏休みだけ髪を染める）が、影響していると思われる。各学期の終業式における指導部長講話で指導の趣旨を徹底していきたい。			
v 学校関係者評価の結果			
② 町会でも法典高校が良くなってきたという話が多く聞かれるようになった。毎日見ているので、地域の目として確かな変化があったといえる。仮に、変な服装で家を出る生徒がいるとして、その場合、親はどう思っているのか、家庭での教育力はどうなっているのか、疑問に思う声も上がった。家庭との連携も引き続き重要となる。			
vi 学校評価のまとめ			
② 各学年での指導の成果で、6月（2回目）の一斉指導では、「改善指導」の対象者がゼロとなった。生徒の中にも、指導を拒否して校則やルールを守らないという雰囲気はなくなってきている。一斉指導については、来年度も引き続き実施し、課題である長期休業後（夏休み明け）の段階で「改善指導」対象者ゼロを目指したい。			

学校評価シート (9/14)

部・学年	生徒指導 3/3	領域	生徒指導
重点目標	3 生徒理解や家庭との連携などを重視し、学校不適応対策を充実させる。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
<p>③ 個人面談や保護者面談、学校行事などを通して、生徒理解を深め、人間関係を築く。</p> <p>④ 生徒の状況を把握して、休みがちな生徒や遅刻の多い生徒に対して話をする機会を増やす。</p>		<p>③ 問題行動カードや改善指導カードの発行数及び特別指導の件数。</p> <p>④ 欠席者数等。</p>	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
<p>③ 問題行動カードの発行件数は、12月現在で、1年107件、2年101件、3年105件である。このうち、入室カード5枚による、問題行動カードの発行件数は、1年56件、2年63件、3年25件であり、授業の準備不足によって発生する入室カードによるものが半数を占める。また、早朝登校ができなかった生徒や教科によっては忘れ物での問題行動カードの発行などによるものである。学年室でのやりとりや普段の生活を通して、教員と生徒の関係が良好で、生徒理解がされているので、「指導拒否」による問題行動カードの発行はほとんどない現状である。</p> <p>④ 週に1度実施している学年会議で、把握されている長期欠席の生徒に対しては、校内支援委員会とタイアップしている。家庭との連絡及び連携が図られているので、関係機関との連携も視野に入れて対応を強化していきたい。</p>			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
<p>③ 教員と生徒の関係が良好に築かれている。学年室の指導においても、指導のみならず相談体制も整っており、この状態を継続していきたい。また、学年会と校内支援委員会とのタイアップの形もできており、スクールカウンセラーを必要とする際の連携も整っているので、授業の準備への呼びかけを強化して、入室カードの発行件数を減少させることで、問題行動カードの発行件数も減少につなげたい。</p> <p>④ 長期欠席者に対しては、関係機関との連携も含めて、今後の対応策につなげたい。</p>			
v 学校関係者評価の結果			
<p>③ 問題行動カードや入室許可書を通して、学年室での生徒との人間関係作りが築かれている。「指導拒否」が起こらないのは、生徒との信頼関係ができているからである。</p> <p>④ 長期欠席者に対しても引き続き丁寧な指導を継続してもらいたい。</p>			
vi 学校評価のまとめ			
<p>③ 教員と生徒の関係が良好であることは、生徒指導上大切なことで、問題行動（指導拒否）が起こらない要素となる。生徒に迎合することなく、生徒理解を深めた確かな人間関係作りの中で、今後も指導にあたりたい。</p> <p>④ 今後も長期欠席者に対して、関係機関との連携を含めて、家庭との連絡を密にすることで、個に応じた対応策を検討していきたい。</p>			

学校評価シート (10/14)

部・学年	進路指導 1/1	領域	キャリア教育
重点目標	1 キャリア教育の推進と就職氷河期対策の充実を図る。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
<p>① 学年進行による計画的なキャリア教育を実施する。</p> <p>② 生徒及び保護者に対して積極的に進路情報を提供するとともに、保護者向けガイダンスを企画する。</p> <p>③ 企業訪問及び求人開拓を組織的に行う。</p>		<p>① 各学年における進路説明会・ガイダンスなどの実施状況。</p> <p>② 進路ニュースの活用状況。ホームページへの保護者向け進路情報の掲載。保護者向けガイダンスの実施状況。</p> <p>③ 企業訪問の企画と実施状況。高校生就職支援事業の活用状況。</p>	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
<p>① 外部講師による進路講演会や進路別ガイダンス、上級学校見学会など計画的に実施した。進路意識を高め、職業観や勤労観を育成し、進路実現を目指したキャリア教育を計画的に行った。特に3年生にはAO入試、推薦入試対策のための進学指導や就職指導を放課後にも重点的に行い、きめ細かい個別指導を行った。主なガイダンスは次の通り。 【進路指導部によるもの】進路全般説明会（3学年1回）、大学短大説明会（3学年3回）、専門学校説明会（3学年3回）、就職説明会（3学年5回）、進学推薦面接指導（3学年22人複数回）、就職相談会（3学年1回）、就職面接指導（3学年51人複数回）。 【外部講師によるもの】分野別進路ガイダンス（各学年1回）、上級学校見学会（1、2学年各1回）、進路講演会（各学年1回）、集団面接指導（3学年1回）</p> <p>② 進路ニュースを発行（1年12号、2年8号、3年6号、就職支援通信8号12/20現在）し、様々な情報をタイムリーに伝えた。特に就職支援通信を新規に発行し就職希望者の意識の向上を図った。また、保護者向け進路講演会（6/4）を初めて実施し、保護者とともに進路指導を考える機会を得た。参加者31人。</p> <p>③ 県の高校生就職支援事業の指定を受け、企業訪問を4/19～6/30の期間に43社（県内30、県外13）実施した。この内24社から求人を得て10人が内定した（12/20現在：学校紹介による内定者は21人）。</p>			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
<p>① ガイダンスや個別指導の実施回数は授業時間数や学校行事との兼ね合いから限界に近い。今後、生徒自らが自主的に取り組むことを望む。</p> <p>② 保護者向け進路講演会は次年度以降も開催を検討し、周知方法を工夫し参加者を増やしたい。</p> <p>③ 就職氷河期の再来ともいわれる状況の中で、一社でも多くと企業訪問を実施した。しかし、訪問期間が長期に渡るなど他の業務に支障が出ている。進路指導部以外の職員の協力が必要である。</p>			
v 学校関係者評価の結果			
<p>① ガイダンスや個別指導は計画的に実施され充実している。</p> <p>② 進路ニュースなどを通して、子どもと話し合える機会が得られているので今後も続けて欲しい。</p> <p>③ 就職氷河期の再来といわれるなか良く努力している。</p>			
vi 学校評価のまとめ			
<p>① 行事を精選し、ガイダンスや個別学習の効果的な実施方法を検討するとともに生徒の主体的な活動を促す。</p> <p>② 進路指導部と学年の連携をより緊密にして、就職支援体制の強化を図る。</p> <p>③ より充実した質の高い進路情報を提供するため方策を検討する。</p>			

学校評価シート (11/14)

部・学年	3学年	1/1	領 域	キャリア教育
重点目標	2 教育活動の成果を、生徒個々の進路実現へとつなげていく。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）		
④ 進路への意識を高めるために、大学・専門学校の説明会や会社見学等へ積極的に参加させる。		④ 大学・専門学校の説明会や会社見学等への参加状況。		
⑤ LHRや総合的な学習の時間を利用して、進路学習を充実させる。		⑤ 進路学習の実施状況。		
⑥ 資格取得として漢字検定3級以上の受検を行う。また、個別指導を行い、進路決定率を向上させる。		⑥ 検定合格者数の状況。個別指導の状況。進路決定者数。		
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
④大学・短大・専門学校については、出願前に最低2校の学校見学を行うように指導した。また、就職希望者については、夏季休業中に志望の会社へ見学を行った。				
⑤1学期のLHR・総合的な学習の時間を利用し、適性検査・進路説明会・求人票の見方・履歴書の書き方・敬語の使い方・面接の受け方までを行った。				
⑥漢字検定では、2級6名・準2級22名・3級102名の受検をすることができた。2学期に入り、放課後を利用して個別に就職・進学指導を行った。12月15日現在、就職27、大学・短大30、専門学校30、地方公務員1、その他1、未定41名（就職活動および大学受験中を含む）				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
④会社見学や大学、短大、専門学校などのオープンキャンパス等への積極的な参加はみられたが、公共交通機関を普段から利用していない生徒が多く、事前の準備が必要であった。				
⑤履歴書作成の指導の中で志望の動機がうまく表現できない生徒がみられた。				
⑥社会の情勢の不況のため昨年まで求人であった会社が急遽採用取り消しとなるなど就職希望者への影響は大きかった。大学・短大への進学は、昨年度の約1.5倍の増加であった。				
v 学校関係者評価の結果				
④ 東京方面への公共交通機関の乗り継ぎに不安を持つ生徒に関しては、事前のシュミレーション等の多くの指導が必要であった。				
⑤ 国語の表現力を向上させるために、読書の習慣を身につける必要性があったと思われる。				
⑥ 就職希望者の約7割が決定（男子8割以上、女子約6割）したが、未定者の職に就く意欲の低下を保護者が簡単に納得してしまう傾向もあり、家庭との連携による指導が今後の課題である。				
vi 学校評価のまとめ				
<p>3学年は進路を決定させる学年ではあるが、個々の基礎学力の定着や将来への希望および創造する力を持つことは1・2学年の頃より地道に積み重ねていく必要があることを痛感した。</p> <p>現在、本校で行っている毎日の朝自習の工夫により、資格の取得をはじめ、文章および言葉等の表現力を豊かにすること（読書習慣や基礎学力の向上）を身につけることで、将来への選択肢を広げることができると思われる。</p>				

学校評価シート (12/14)

部・学年	2学年	2/2	領域	特別活動
重点目標	1 将来、良き社会人となるために必要な「自立心」を身につける。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）		
① 班長会やルーム長会等の自治組織を通じ、責任感とともに学校行事に対する積極的な取組姿勢を養い、「自立心」を身につける。		① 日常生活における生徒の問題意識の状況と、最大行事である修学旅行への主体的な取組姿勢、及びアンケート等。		
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
① ルーム長会の役割は、日常の「生徒による生徒の意識向上」及び各種行事を「スローガン作成」という形でリードすることにより、生徒の自治意識や自立心の涵養がねらいである。学年最大の行事である修学旅行のスローガンは「目指せ！心の交流 in 伊是名島」であったが、その目標はほぼ理想的な形で達成された。沖縄県の離島である伊是名島で2泊の民泊を行い、実施後のアンケートや民泊先へのお礼状、また修学旅行短歌から、「心の交流」が達成されたことが十分に窺えた。				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
① 修学旅行のアンケートの多くが、表現の違いはあっても「伊是名島の家族との思い出が、これからの高校生活の頑張りを支えてくれるような気がする」という内容であった。日常生活では親や学校の先生であるが、修学旅行で得られた成果である「どこかで誰かが必ず応援してくれている」という思いを維持させ、そこから将来に対する明るい展望、希望を見出す力添えをしたい。				
v 学校関係者評価の結果				
① 近隣の中学校でも民泊体験は大変教育効果が高いようで、その後も長く交流が続くようである。今後も沖縄での「心の交流」の記憶とともに、頑張る気持ちを持続させてほしい。梨農園等、近隣での農業体験を通じた地域交流も一考の価値がある。心の交流とともに、地域への貢献という奉仕の精神もはぐくまれるのではないかな。				
vi 学校評価のまとめ				
① 一部の生徒ではあるが、ルーム長会を通じて、生徒による自治意識や各種行事を自分たちの手で創りあげていこうとする気概が芽生え始めてきた。来年度は最上級生にふさわしい、そうした気概や主体性が学年全体に広がるよう、ルーム長会をさらに活性化させていきたい。				

学校評価シート (13/14)

部・学年	総務部	2/2	領域	特別活動
重点目標	2 校外における美化活動を推進し、道徳心やボランティア意識を育む。			
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）		
② 学期毎に校外清掃活動を計画し、生徒全員が意欲的に取り組めるように工夫する。		② 校外清掃の実施回数。学校周辺の清掃状況。生徒の参加状況や感想。		
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）				
② 昨年度まで校外清掃は、年1回1学期末に全校一斉で実施していたが、地域の方々に好評だったので、今年度からはそれに付け加えて、学年ごとの校外清掃を企画した。3学年は1学期、1学年は2学期、2学年は3学期にそれぞれ割り振られ、学期内の任意の1日を充てることにした。生徒の参加状況は良好で、健全な美化観念の醸成に資するようである。				
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）				
② 地域住民から寄せられる声は非常にポジティブなものが多く、今後も恒常的に継続することが肝要であると痛切に感じる次第である。清掃という機会にとらわれず、生徒が普遍的に美化意識を持つよう指導を強化したい。				
v 学校関係者評価の結果				
② 地域の美化推進に協力していただき、評価できる。今後とも、さらに地域との連携を深め、生徒の意識が高まるように一層の工夫をお願いしたい。たとえば町内会が実施する530（ゴミゼロ）デーの前後に、校外清掃を設定してはどうだろうか。				
vi 学校評価のまとめ				
② 校外清掃の設定時期・回数についてはなかなか一筋縄ではいかないものがある。町内会は日曜日に活動するが、その時生徒を招集できるかという問題、あるいは生徒の安全確保の問題などを検討する必要がある。できるだけ地域と連携できる形で、校外における美化活動を推進したい。				

学 校 評 価 シ ー ト (1 4 / 1 4)

部・学年	生徒会保健部 1 / 1	領 域	特色ある教育活動
重点目標	部活動の加入率や定着率の向上を図り、学校生活の充実度を高める。		
i 具体的方策（具体的な取組、手立て）		ii 評価項目・指標（評価方法・評価基準）	
過半数の生徒が部活動に所属し、積極的に活動できるよう、各学年と連携して指導する。		部活動の加入率及び活動状況調査の実施。	
iii 自己評価の結果（達成状況、結果の分析）			
<p>4月末日に実施された部活動加入調査の結果、本校生の加入率は46.3%、1年生のみは54.5%であった。昨年同時期の同調査と比較すると、全校で3.8ポイント増（昨年は42.5%）1年生のみの比較では6.4ポイント増（昨年は48.1%）で、これが全体の平均を押し上げることになった。なお去年の1年生部活動加入者77名のうち69名が2年になっても部活動を継続しており、定着率は89.6%である。昨年の1年後定着率が75.2%だったので、14ポイント以上改善されたことになる。もっとも、一昨年1年生の加入者数は93名で加入率58.1%、1年後も継続していた者が70名と、1年後定着者の実数は増えていないのも事実ではある。しかし今年度から入学定員が40名増え、それが部活動を活性化させつつあるとの実感はあり、陸上競技部・卓球部等の好成績も背景に、見通しは明るいと思われる。</p>			
iv 改善方策（自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向）			
この成果は、各部活動顧問の尽力や、意欲ある生徒が多数本校を志願するようになった結果でもあるが、改善方策としては、新年度入試における「自己表現」での実技試験の導入が挙げられる。			
v 学校関係者評価の結果			
中学校では、以前は部活動への全員加入が前提であったが、今はそれもなく、加入率も半分位であることを考えれば、この数値はよいのではないかとの評価がなされた。			
vi 学校評価のまとめ			
地域社会の評価として、部活動をやっている生徒は、一般にそうでない者よりもマナーがよいとされている。本校としても、引き続き部活動を活性化する努力の継続が求められている。			